

熊本国府高等学校

## 3年 学年通信 第4号

2007.7.20(金)発行 文責:本山

芸術鑑賞

### 映画 「新・あつい壁」

7月13日、3限授業をして、県立劇場に移動して全校で映画「新・あつい壁」の鑑賞をしました。感想文を紹介します。

見て思ったことは、昔の日本は、ハンセン病患者に対してとても差別をしていたこと知り、驚いた。無実の勇吉をハンセン病であるとして犯人にして、警察は、勝手にウソの証言を裁判所に出したり、親戚の人をおどして勇吉を犯人に仕立て上げようとしていた。しかし、今では、療養所の入所者と社会の交流も活発になり、ハンセン病やその療養所の存在すら知らなかった若くは若い世代への啓発活動も広がり、療養所の内と外をめぐる状況は、かなり変わってきている。また、らい予防法が廃止され強制隔離政策が間違いであったことを国が認め謝罪した。しかし、私たち一人ひとりの偏見や差別意識が払拭されることは簡単にイコールにならないということを、温泉宿泊拒否事件で改めて実感した。療養所への中傷や嫌がらせもあっています。もっとみんなハンセン病に対する意識を高めないといけないと思った。

私は、映画を見る前に、とても難しい内容の作品だと聞いていたので寝てしまうかもしれないと思っていましたが、見はじめると現在でも続いているハンセン病患者やその家族に対する差別や偏見についての問題が、記者がインタビューすることによって深まっていくという私たちにも分かりやすい内容で、最後まで興味を持って鑑賞することができました。映画で明らかになっていく問題や事件は、平和に暮らす私たちにとって想像できないようなことばかりで驚きました。ハンセン病患者があんなひどいところに入れられ、隔離され、差別を受け続けて最後には家族に

「死んでくれ」といわれるほどの理由はないはずだと思います。しかも、その差別が今でも残っているなんて信じられない。病気の患者やその家族が世間に隠れて生活しなければならないなんて、ぜったい間違っていると思います。どうにかして私たちの手で、差別や偏見がなくなっていくのかと強く思いました。映画の内容と直接関係ないのですが、出演者に2人知り合いがいたので驚きました。しかも血まみれになって殺される役でした。今度会った時には、現場の裏話なんか聞いて、もう1度改めて鑑賞したいと思います。何度見ても考えさせられる映画だと思いました。

まず、ハンセン病の映画を見ると聞いたときに、ただ病気の話や差別されたという事実だけの映画だと思ってた。しかし、ある事件を元にしてあった。一人の男の人がハンセン病と疑われ、殺人未遂の容疑者にまでさせられた。警察にも犯人と決め付けられ、証拠を偽装され、裁判では10年の実刑になった。私は、それを見ていて腹立たしくなった。なんで証拠を偽装してまで容疑者を犯人にしたがるのか、警察が捜査を面倒くさがったら世の中は最悪になると思った。それから、容疑者は、脱獄して親戚の家を訪ねたり小屋に隠れたりしたが、警察の見つかってしまう。逃げようとはしていなかったのに腕を銃で撃たれた。警察は、それを利用して意識が朦朧としている容疑者の指で偽造した調書に無理やり押印させた。そして、その後容疑者を助けようとした弁護士もいたけれど、結局警察が、調書やそのとき容疑者が着ていた服も証拠隠滅したから、容疑者が犯人じゃないことを証明できなくて敗訴になった。そして、死刑は執行された。警察が容疑者を恐喝して無理やり解決されることがまだ、完璧にはなくなっていないので、そういった非道徳的な世の中が良くなっていけばいいと改めて考えさせられた映画だった。

最初は、面白くなさそうだなと思っていたけど、友達に、知っている人が出るよ！といわれてちょっと楽しみになりました。どんな映画化知らなかったの、プリントを読んでみたら、ハンセン病の映画でした。でも、ハンセン病がどんな病気かとか名前を

聞くだけで全然知りませんでした。当日になってみると、ひどい差別をされていて、家族にハンセン病の人がいるというだけで残された家の人たちは、親戚の人たちからも軽蔑されていてとてもかわいそうだった。映画の中であった事件について、ひどい人たちがいたんだなと思いました。犯人じゃない人を犯人に仕立てて、腕を撃たれて字が書けないのをいいことにウソを書いて裁判所に出して、裁判官すらもその人を犯人にして死刑にした。犯人にされた人は、10年間も本当のことを言わずに刑務所に入っていて、その理由が助けてくれた親戚のおばさんたちにハンセン病患者を泊めたと迷惑がかかるからというもので、その人は本当にいい人だなと思いました。でも結局最後は、その人は、死んでしまってなんてひどい人たちがいるもんだと思いました。この映画は、本当にあった事みたいだったので、二度と差別やこんなひどいことがあってはならないと思いました。

ぼくは、恵楓園のすぐ近くに住んでいるけど、昔、あんな事件があったなんて知りませんでした。というか恵楓園がなんで出来たのかも知りませんでした。でも、映画を見てすごく良く分かりました。あそこに入ると一生出られなかったのかと思うと…赤ちゃんも産めないなんてむちゃくちゃだと思いました。中学校の頃、恵楓園には、何回も遠足で行ったことがあります。そして、その人の話を聞いたことがありました。でも、ここまでひどいとは思いませんでした。そして「今でも変わりません。」という映画の一言はとても心に残りました。あんな事件が起こり、死刑になったなんて今では考えられません。

でも、一人の弁護士が無実を晴らそうとした。あの弁護士のような人が一人でも多くいたらあの事件は、起こっていなかったかもしれない。自分も周りに流されず、自分の意見を持った人間になりたいと思いました。

あってはならない差別や偏見について、  
私たち自身がどう向き合っていかなければならないか……  
皆さんは、どう思いましたか？……